

原 著

保健師課程を選択する女子大学生の職業選択に関する認識と 卒業生保健師のキャリア支援

布花原 明子* 鹿毛 美香* 伊藤 直子*
 巫々 美香** 平島 美也子***

＜要 旨＞

女子大学における保健師課程学生のキャリア支援への示唆を得るために、学生と卒業生保健師との交流会を実施し、学生の職業選択に関する認識と、卒業生保健師から得られた支援内容を明らかにした。職業選択に関する認識として、【保健師という職業の解釈】【人生と職業キャリアの模索】【保健師になるための備え】という3つのカテゴリが、卒業生保健師の支援として、《情報提供》《モデルの提示》《仲間としての存在》《保健指導技術の提供》という4つのカテゴリが抽出された。就職活動の時期までに、保健師の現場を経験することが難しい学生にとって、保健師職としてはたらく卒業生と語り合うことは、ワークキャリアを含めたライフキャリア全体を広く捉えて、職業選択を行うための一助になると考えられる。

キーワード：キャリア支援、職業選択、保健師課程、女子大学生、卒業生

1. はじめに

大学設置基準の改正により、2011年度から教育課程にキャリアガイダンスを盛り込むことが義務化された。「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」¹⁾のなかで、職業教育は、一定の特定の職業に従事するために必要な知識・技術、能力や態度を育てる教育であり、キャリア教育とは職業教育も含み、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育であると定義づけられている。また、生涯学習の観点に立ったキャリア形成支援の必要性に言及しており、青年後期の発達課題である職業選択に関する支援は、学校から社会・職業へと移行する大学において、その必要性が高まっている。

安井²⁾は、キャリアを自分で創造するキャリアデザインのきっかけとなる刺激を与えるのがキャリア教育であると述べている。そして、キャリアは個人がその職業生活、家庭生活、市民生活等の全生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動として幅広く捉

える必要があることから、職業キャリアを含めたライフキャリア全体を広く捉える概念として用いることを主張している。これまで看護系大学の学生を対象とした職業選択に関する研究は、職業教育に関する文献^{3)～4)}が多く、大学での専門職業教育の質の向上に多くの示唆を与えてきた。しかし、ライフキャリア全体を広く捉える概念から学生の職業選択に関するキャリア支援を考察した研究は、著者の知る限り殆どみられない。現在、看護職の9割以上を女性が占める⁵⁾ことや、働き方が多様化している現状を踏まえると、看護系大学における女子大学生の職業選択に関するキャリア支援について、女性のライフキャリア全体の観点から検討することは意義があると考えられる。

さて、学生の職業選択に関連して、土岐⁶⁾は、日本の若者のキャリア形成におけるソーシャルネットワーク研究の中で、女子大学生たちが取り結ぶ他者たちとの関係の特徴を検討し、個人を取り巻くネットワークが、キャリア形成のあり方に影響することを示唆している。そこで、筆者らは、学生のキャリア形成に影響を与える可能性のある他者として、学生と同じ女子大

* 西南女学院大学保健福祉学部看護学科
 *** TOTO 株式会社第2工場健康管理室

** 八幡東区役所保健福祉課

学を卒業し、保健師として働く同窓生に期待を寄せた。そして、学生が卒業生保健師（以下、OG）との出会いを経験することにより、職業選択への何らかの支援を得られるのではないかと考えた。さらに、その支援の場合は、キャリア教育が専門教育を問わず様々な教育活動の中での実施が求められている⁷⁾ことから、教育課程外の活動においてその可能性を開拓することが、大学でのキャリア支援の環境づくりに必要である。

そこで本研究は、保健師課程を選択する女子大学生とOGとの交流の機会を設定し、学生の職業選択に対する認識を明らかにし、OGが発揮したキャリア支援の内容を検討することを目的とした。

II. 研究方法

1. 用語の定義

キャリア支援とは、「生涯を見据えた職業・進路選択やキャリアデザイン（生き方や進路の設計）、職業的能力や社会的能力の育成を援助する教育的方策」とし、日本学生支援機構が実施した「大学等における学生生活支援の実態調査」で用いた「キャリア形成支援」の同義語として用いた。

2. 研究対象者

A 女子大学保健師課程2、3年生36名。2年全員が前期に「公衆衛生看護学概論」を履修、後期開始前に保健師課程学生が選抜される。2年生後期と3年生前期に各論講義、4年次に演習・実習を履修する。対象選定は、学生の職業選択に至る過程で、専門職社会化に最も影響を与える要因は臨床実習である⁸⁾ことから、職業選択に関する認識に影響を及ぼす実習の条件バイアスを排除するために、長期に及ぶ看護師課程の臨床看護学実習前であること、且つ看護系大学生として保健師が働く職場を体験していない2年後期と3年前期を対象とした。

3. 調査期間：2015年6月（3年）、11月（2年）。

4. 交流会の概要

- 1) 交流会前にOG 9名に対し、①学生が職業選択に関する疑問や不安を表出できるよう、②授業ではないため、学生が評価を気にせず語り合えるように伝えた。
- 2) 全体会でOGが「保健師になるまでの道のりと保

健師活動の面白さ」を発表、その後、座談会では学生3名とOG 1～2名がテーブルを囲み、学生は12分毎にテーブル席を時計回りに順次移動し、複数のOGと偏りなく交流できるよう配慮した。

5. データ収集方法

学生の職業選択に対する認識と、OGのキャリア支援についての見方や考え方を明らかにするために、自分の意見や経験が尊重される環境のなかで、意見や経験を腹藏することなく表現するという弛緩効果⁹⁾のあるフォーカス・グループ・インタビュー法（Vaughn, et al., 1996）を質的データの収集方法に採用した。対象者は全員インタビュー参加への意思を示したが、研究者のインタビュー可能な日時に参加可能であった21名である。各学年2グループ（1グループ5～6名）ずつ、計4グループに実施した。調査は筆者らが所属する大学施設の演習室の一室で実施し、司会は授業評価者以外の者が行い、1グループの所要時間30～40分で、参加者同士の相互作用による発言内容の広がりを考慮しつつ進行した。インタビューガイドを作成し、①交流会に参加して得られたこと、よかったこと、②戸惑いや期待とは違っていたことを質問した。インタビューは承諾を得てレコーダーに録音した。

6. 分析方法

データ分析の手続き（Vaughn, et al., 1996）に基づき分析した。逐語録に記述されたデータを読み返し、情報探索に関わる発言内容を、一つひとつの言葉、文章、段落ごとに、発言者の言葉をできるだけ引用しながら単位化し、抽出した情報単位にその意味内容をあらわすコード名をつけた。同一のデータを、学生の職業選択に関する認識と、OGのキャリア支援に対する受けとめの2つの観点から別コードに振り分けて構成した。さらに、意味の類似したコードをデータの単位群ごとにカテゴリー名をつけカテゴリー化を行った。データ分析では、研究者間で逐語録データと抽出されたコード及びカテゴリーを照合し、合意が得られるまで検討を行い、妥当性を高めよう努めた。

7. 倫理的配慮

A 大学倫理委員会の承認を得た。調査協力は任意でその可否で学業への不利益は生じないこと、質問紙への無記名で匿名性の保持、データの匿名化と統計的処理、結果の学会等への公表について口頭及び文書で説明し、同意書の提出をもって対象者とした。

Ⅲ 研究結果

1. 学生の職業選択に関する認識

文中の【】及び《》はカテゴリー、『』はサブカテゴリーを示し、＜＞はコード、「」は参加者の発言、（）は参加者の発言を補足説明している。

【保健師という職業の解釈】【人生と職業キャリアの模索】【保健師になるための備え】の3カテゴリーと、16 サブカテゴリーが抽出された（表1）。

表 1. 学生の職業選択に関する認識

カテゴリー (3)	サブカテゴリー (16)	コード (53)	IDNo.
保健師という職業の解釈	保健師が働く場と特性を理解する	職場の環境を理解する	28.53
		対人サービス以外の業務を理解する	29.69
		保健師の活動領域を理解する	64
	保健師への思い込みを修正する	予防とは異なる緊急対応にインパクトを受ける	31
		家庭訪問には臨床看護の経験が必須という不安を解く	34
		予防活動では迷惑がられることもある	41
		多職種連携に対する不安を解く	68
	保健師に必要なものに気づく	保健師としてのビジョンをもつことが必要だ	1
		壁にぶつかり未知の世界を切り開く仕事だと意味づける	10
		多様な人に関わり磨かれたコミュニケーション技術に驚く	60.23
		住民に拒否されても支え続ける寛容さを感じる	42
		周囲の厳しい反応に動じない逞しさを感じる	43
		柔軟な視野をもっていると感じる	57
		保健師には人的ネットワークの形成が必要だ	74
		仕事のやりがいと経済的収入面を天秤にかける	8
人生と職業キャリアの模索	保健師で働くメリット・デメリットを看護師と比較する	ライフワークバランスから保健師と看護師を比較する	9
		保健師と看護師の労働条件を比較する	70.32
		保健師としての自身の将来像を描写する	2
	保健師への心理的接近をはかる	保健師の仕事のやりがいを感じる	4.52.55
		大学での学びを生かせるという期待を感じる	27
		保健師キャリアを積むには新卒で就職してよい	35
	保健師就職時期を見立てる	現段階での人生設計に対する不安定さを感じる	26
		保健師就職のタイミングが重要だと感じる	40
		女性のライフイベントを保健師職に生かそうとする	44
		人生設計をふまえた就職準備が必要だと自覚する	25
		選択肢を広げた人生設計が必要だと自覚する	49
	保健師として働く職域を選考する	行政・産業・学校職域に選択肢を増やす	50.56
		働きたい職域を絞る	51.54.66.65
	新卒での保健師選択を回避する	臨床経験を経て保健師になりたいと希望する	7
		保健師の進路選択時期を延期する	11
		看護師として働きながら保健師を選択肢に置く	30.47
	看護師から保健師転職への壁を意識する	採用年齢条件による保健師転職のタイムリミットを懸念する	15.16
		看護師キャリア上で保健師転職を決意する難しさを感じる	17
		収入面をふまえて転職を決定することが大切だ	39
	新たに迷いが生じる	働きたい職域を迷う	5.63
		保健師就職時期を迷う	6.18
	職業選択に必要な情報を切望する	助産師資格取得を迷う	71
		保健師への転職プロセスに関する情報の収集意欲が高まる	33
		保健師の職域情報の収集意欲が高まる	36
		卒業生のサポートの継続を期待する	62
		保健師実習への関心意欲を高める	3.58
保健師になるための備え	保健師実習へ期待を寄せる	実習に臨む積極的な態度を自覚する	73
		専門知識の修得への意欲を高める	21
	授業の学修意欲が向上する	普段からの学習意欲を高める	22
		大学外の活動への参加意欲が向上する	12.59
	社会活動への意欲が向上する	多世代とのコミュニケーションの必要性を自覚する	19
		ボランティア活動で地域との交流の機会を増やす	20.61
	サポートを得られるよう人脈をつくる	学生時代から相談できる人を獲得する	75
		主体的に就職情報を収集する意欲が向上する	37.45.46
		具体的に就職試験の準備を考える	13.14.24.72
		今すぐ就職準備は必要ないと先送りする	38.48
	就職試験対策を検討する	今の自身の準備状況に対して危機感を感じる	67
		早期からの試験対策を自覚する	76

1) 保健師という職業の解釈

学生の目線で保健師職を咀嚼して表現することである。『保健師が働く場と仕事の特性を理解する』では、学生は「職場の環境を理解し」、保健師の活動領域を理解し、事業評価や予算等の「対人サービス以外の業務を理解」した。『保健師への思い込みを修正する』では、「家庭訪問には臨床看護の経験が必須という不安」や「多職種連携に対する不安を解いて」いた。また、「予防活動では迷惑がられることもある」と知り、「予防と異なる緊急対応にインパクトを受け」ていた。『保健師に必要なものに気づく』では、保健師は「柔軟な視野をもっていると感じ」たり、「すごいコミュニケーション能力だと思った (ID23)」と、「磨かれたコミュニケーション技術に驚いて」いた。そして、「住民に拒否されても支え続ける寛容さ」や、関係者等の「周囲の厳しい反応に動じない逞しさを感じて」いた。また、保健師職は「壁にぶつかり未知の世界を切り開く仕事だ」と意味づけ、「保健師としてのビジョンをもつことが必要だ」と受けとめ、「保健師には人的ネットワークの形成が必要だ」と考えた。

2) 人生と職業キャリアの模索

将来の人生を描きながら職業・進路を探ることである。『保健師で働くメリット・デメリットを看護師と比較する』では、保健師・看護師間で、「仕事の遣り甲斐と経済的収入面を天秤にかけ」たり、「ライフワークバランス」、労働条件を比較した。『保健師への心理的接近をはかる』では、「大学での学びを生かせるという期待」や「保健師の仕事のやりがいを感じ」、保健師としての自身の将来像を描写し、「保健師キャリアを積むには新卒で就職してよい」と捉え直していた。『働く職域を選考する』では、「産業保健師の方の話も聞いて、より具体的にイメージが湧いて、行政だけでなく色々な道があるな」と希望が広がった (ID65)」と「行政・産業・学校職域に選択肢を増やし」たり、「働きたい職域を絞り込んで」いた。

一方、『新卒での保健師選択を回避する』では、新卒で就職を希望しない学生は、「保健師の進路選択時期を延期」し、「看護師で働きながら保健師を選択肢に置く」ことや、「臨床経験を経て保健師になりたいと希望」した。『保健師就職時期を見立てる』では、「人生設計をふまえた就職準備が必要だと感じ」、選択肢を広げた人生設計が必要だと自覚することや、「女性のライフイベントを保健師職に生かそうとし」た。また、採用に年齢制限があるため、「保健師就職

のタイミングが重要だと感じ」、現段階での人生設計に対する不安定さを感じていてもいた。『看護師から保健師転職への壁を意識する』では、「看護師キャリア途上で保健師転職を決意する難しさを感じ」たり、「採用年齢条件による保健師転職のタイムリミットを懸念」し、また「収入面をふまえて転職を決定することが大切だ」と考えていた。さらに、学生は「働きたい職域を迷い」、保健師就職時期を迷い、「助産師資格取得を迷う」など『新たに迷いが生じた』。また、『職場選択に必要な情報を切望する』では、「保健師の職域情報の収集意欲」や「保健師への転職プロセスに関する情報の収集意欲が高まり」、卒業生のサポートの継続を期待し「ていた」。

3) 保健師になるための備え

保健師として働くために学生時代に備えたいと考えることである。『保健師実習への期待を寄せる』では、「保健師実習への関心意欲を高め」、実習に臨む積極的な態度を自覚し「ていた」。『授業の学修意欲が向上する』では、「専門知識の修得への意欲」や「普段からの学修意欲」を高めた。また、『社会活動への参加意欲が向上する』では、「大学外の活動に参加したい」や「ボランティア活動で地域との交流の機会を増やす」ことを考え、「多世代とのコミュニケーションの必要性を自覚し」た。そして、『サポートを得られるよう人脈をつくる』では、「相談できる人を獲得したい」と考え、『就職試験対策を検討する』では、「就職情報を収集する意欲が向上し」た。また、「今の自身の準備状況に対して危機感を感じ」、早期からの試験対策を自覚し、「具体的に就活の準備を考えて」いた。一方で、新卒での保健師就職を回避した学生は、「今すぐ就職への行動は必要ないと先送りし」ていた。

2. OGのキャリア支援に対する学生の受けとめ

学生が受けとめた支援は、「情報提供」「モデルの提示」「仲間としての存在」「保健指導技術の提供」の4カテゴリーと、16 サブカテゴリーが抽出された (表2)。

表2. 学生が受けとめた OG のキャリア支援

カテゴリ (4)	サブカテゴリ (16)	コード (55)	IDNo.
情報提供	保健師の仕事の情報提供	多職域での活動を紹介する	62.63
		産業保健の活動を紹介する	64
		学校保健分野を紹介する	70
		看護師と保健師の専門性の違いを示す	35
		就職先による業務特性の違いを伝える	37.29
		実際に行っている業務を伝える	52.55.56
		事業運営の工夫の実際を伝える	59
		職種間の連携の実際を伝える	67
		事業を予算化する業務を伝える	68
		職場スタッフの机配置を伝える	28
	就職に関する情報提供	職場の人間関係を伝える	48
		職場の保健師スタッフの体制を伝える	54
		保健師職能のネットワークによるキャリアアップを語る	9
		保健師の仕事に関連資格・経験が有利か否かを語る	34.72
		配置部署に応じて自己研鑽を積んでいくことを伝える	36
		職場の新人保健師への教育指導体制を伝える	57
		新卒から保健師の職業キャリアを積むメリットを示す	71
		採用に年齢条件があることを伝える	12.17.21.40
		自治体によって異なる採用年齢条件を伝える	38
		看護師と保健師の給与面を比較して伝える	7.32
モデルの提示	保健師モデルの提示	看護師と保健師の勤務体制を比較して伝える	8
		労働条件の違いを知り意志決定するよう助言する	41
		保健師と看護師の採用人数を比較して伝える	66
		保健師にも時間外呼び出し勤務があることを伝える	69
		公務員試験の一般問題の内容を伝える	14
		採用試験対策の準備時期を助言する	39
		現役保健師の生きた仕事の経験を語る	1
		授業では聞けないような生々しい事例の経験を語る	2
		知識を実践に生かしている経験を語る	27
		住民の命と生活に踏み込んだ経験を語る	31
	保健師の姿をみせる	拒否されても支援を継続した経験を語る	43
		周囲からの厳しい反応を乗り越えた経験を語る	45
		前向きに捉える姿勢を語る	47
		柔軟な考え方を語る	58
		保健師の仕事を生き生きと語る姿を見せる	4
仲間としての存在	職業選択モデルの提示	保健師の仕事のやりがい語る姿を見せる	56
		保健師への職業決定に影響した実習の魅力を語る	3
		卒後に保健師に就職した経験を語る	5
		看護師経験を経て保健師に転職した経過を語る	6.20.30.33.42.53
		ライフイベントと保健師転職の経緯を語る	10
	同窓生としての親近感を与える	同窓生である	16
		後輩に教えてあげたい思いを発信する	19
		同サークル内で話す感覚をもたせる	26
		大学時代の自分の姿を語る	44
		気さくに声をかける	13.49
保健指導技術の提供	近い世代である	優しく語りかける	61
		学生とかけ離れない年代である	15
		テーマ以外の話題から導入する	50
	雰囲気づくりを行う	学生のどんな質問も受けとめる姿勢を示す	18.22.24
		保健師の理想を押しつけない	23
	学生目線に寄り添う	上の立場から接さない	25
		学生が聞きたいことを引き出す	11
	積極的に質問を引出す	学生の不安を表出させる	46
		看護師にも保健師にも就職したい思いを支持する	60
	学生の希望進路を支持する	保健師業務との関連から助産師進学を支持する	51

1) 情報提供

保健師の仕事と就職に関する情報を提供することである。保健師の仕事について、『多職域での活動を紹介する』では、OG は＜地域保健＞、＜産業保健＞、＜学校保健＞の活動を紹介した。『業務内容を伝える』では、＜看護師と保健師の専門性の違いを示し＞、＜事

業を予算化する業務＞や＜事業運営の工夫の実際＞、＜職種間の連携の実際＞及び＜実際に行っている業務＞を伝えていた。また、＜配置部署によりサービス提供とデスクワークの業務量が異なり＞、＜就職先による業務特性の違い＞を伝えていた。『人的・物的な職場環境を伝える』では、＜職場の保健師スタッフの体

制>や<職場スタッフの机配置>及び<職場の人間関係>を伝えた。『保健師就職後の職業キャリアを語る』では、<新卒から保健師の職業キャリアを積むメリットを示し>たり、<保健師の仕事に関連資格・経験が有利か否かを語って>いた。また、就職した<職場の新人保健師への教育指導体制>や、<配置部署に応じて専門性の自己研鑽を積んでいくことを伝え>、<保健師職能のネットワークによるキャリアアップを語って>いた。『保健師の就職可能な年齢を伝える』では、<保健師採用に年齢条件があること>や<自治体により採用の年齢条件が異なること>を伝えた。『保健師と看護師の労働条件を評価する』では、<看護師と保健師の給与面>、<採用人数>、<勤務体制>を比較したり、保健師には<時間外の緊急呼び出し勤務があることを伝えた>。また、転職する場合には、<労働条件の違いを知り意志決定するよう助言して>いた。『採用試験に向けて助言する』では、<公務員試験の内容を伝え>、<採用試験対策の準備時期を助言して>いた。

2) モデルの提示

職業選択モデルと保健師モデルの多様性を示すことである。『保健師への進路決定プロセスを示す』では、<保健師への職業決定に影響した実習の魅力>、<卒後に保健師に就職した経緯>、<看護師経験を経て保健師転職した経緯>を語った。また、「子どもとか家庭の問題で、看護師で働くのは厳しいなと思いつつ、でも仕事は辞められないから、看護師をしながら同時に産業の面接に行ったと聞いて (ID10)」と<ライフイベントと保健師転職の経緯を語って>いた。『保健師の姿を語る』では、<現役保健師の生きた仕事の経験>、<授業では聞けない生々しい事例の経験>、<住民の命と生活に踏み込んだ経験>、<周囲からの厳しい反応を乗り越えた経験>、<拒否されて支援を継続した経験>であった。また、<前向きに捉える姿勢>や<柔軟な考え方を語り>、<知識を実践に生かした経験を語って>いた。『保健師の姿を見せる』では、学生が「すぐ全員が生き生きして (ID4)」と感じたように、OGは<保健師の仕事を生き生きと語る姿>や、<仕事のやりがい語る姿を見せて>いた。

3) 仲間としての存在

学生にとって同じ大学で学んだ者同士という親しみが感じられることである。『同窓生としての親近感を与える』では、OGは学生に<気さくに声をかけ>、<

優しく語りかけて>、<後輩に教えたいたい思いを発信した>り、<同サークル内で話す感覚をもたせて>いた。また、学生が「(仕事の)話を聞いてすごい、自分にできるのかな、ちょっと不安だったけど、(大学時代の話聞いて)一緒だ、親近感が得られたというか身近に感じた (ID44)」ように、<大学時代の自分の姿を語り>、学生に<同窓生である>という存在感を与えていた。OGは<学生とかけ離れない年代である>ことで『近い世代である』と受けとめられていた。

4) 保健指導技術の提供

学生に保健指導技術を提供することである。『雰囲気づくりを行う』では、「保健師の話から入らない方が、(交流に)入りやすかった、緊張感がほぐれて (ID50)」と<テーマ以外の話題から導入する>ことや、<学生のどんな質問も受けとめる姿勢を示し>た。『積極的に質問を引き出す』では、<学生の不安を表出させ>、<学生が聞きたいことを引き出して>いた。『学生目線に寄り添う』では、<上の立場から接さない>ことや、<保健師の理想を押しつけない>ようにしていた。『学生の希望進路を支持する』では、<看護師にも保健師にも就職したい思いを支持し>たり、<保健師業務との関連から助産師進学を支持し>た。

IV 考 察

学生は、【保健師という職業の解釈】と、【人生と職業キャリアの模索】を行い、大学時代にできる【保健師になるための備え】を考えた。松田¹⁰⁾は、大学生がキャリア決定までに必要となる行動面の研究は「キャリア探索」の観点で進められてきたと述べ、その具体的内容は、仕事に関する環境探索と、自分自身に関する自己探索の2側面から構成されると説明している。学生の職業選択に関する認識をキャリア決定までの行動の一面と位置づけ、職業キャリアとライフキャリアの視点から、3つのカテゴリーとOGのキャリア支援について考察する(図1)。

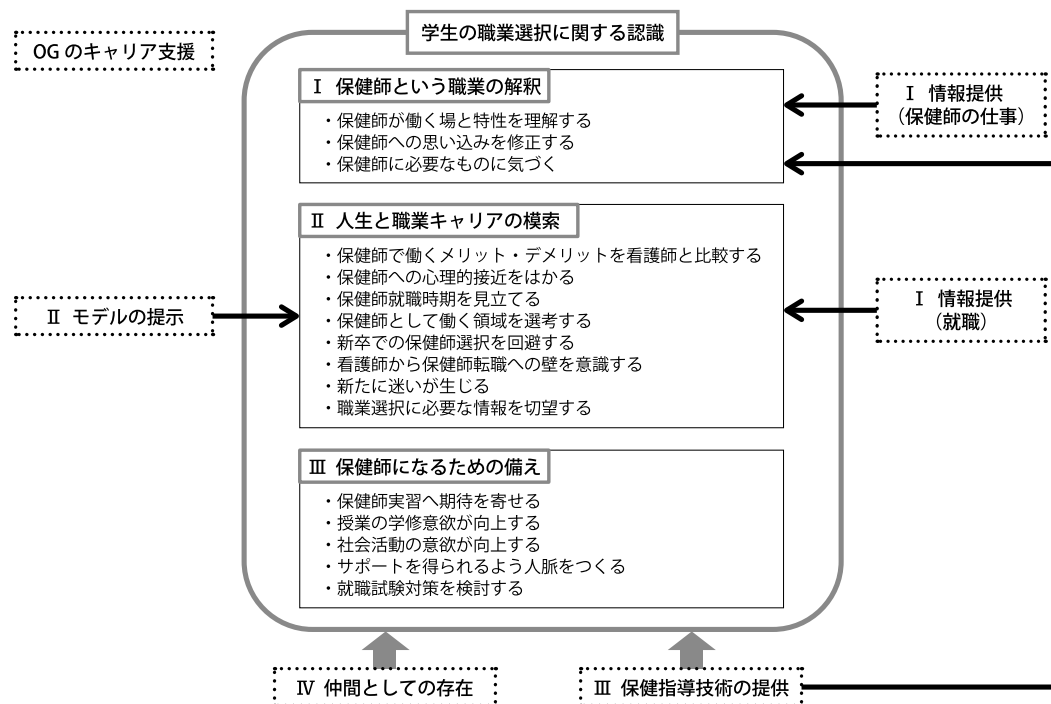


図1. 学生の職業選択に関する認識とOGのキャリア支援

1. 学生の職業選択に関する認識とOGのキャリア支援

1) 環境探索

学生は【保健師という職業の解釈】のなかで、『保健師が働く場と仕事の特性を理解し』、それまでの『保健師に対する思い込みを修正し』、『保健師に必要なものに気づく』ことで、職業を理解した。また、OGの《情報提供》は、地域保健、産業保健、学校保健の活動や、同じ領域での＜就職先による業務内容の違い＞等であった。保健師の職域や業務は多岐に及ぶが、学生は限られた実習期間に全て経験することは困難である。多領域で働く複数のOGから提供された情報は、実習では経験困難な保健師が働く場と特性を理解する上で、有効な資源であったと考えられる。

また、環境探索は、OGの話から得られる情報以外を介しても行われていたと考えられる。例えば、OGは《保健指導技術の提供》の中で、＜学生の不安を表出＞させ、＜聞きたいことを引き出し＞、また『学生目線に寄り添って』いた。この一連のコミュニケーション技術は、保健指導に用いるヘルスカウンセリングの基本的姿勢である観察、傾聴、確認、共感¹¹⁾の技術と一致する。一方、学生は、OGの関わりについて、保健師の＜磨かれたコミュニケーション技術＞として捉え、『保健師に必要なもの』として認識していた。OG

は保健指導技術を学生に伝承し、学生は体験的に理解したと考えられる。

2) 自己探索

学生は、【人生と職業キャリアの模索】の中で、『保健師への心理的接近をはかり』、卒後の職業選択を模索した。『保健師として働く職域を選考する』では、多領域の保健師活動をイメージして＜職域の選択肢を増やして＞いた。本多ら¹²⁾は、医療系学生の進路決定のプロセスにおいて、職業への明確なイメージを持つことが決定をスムーズにすることを明らかにしている。OGの《情報提供》が、学生の職業に対する具体的な理解とイメージ化を促したと考えられ、職業選択をスムーズにする支援であったことが推察された。

一方、転職に関する模索の特徴の一つは、『看護師キャリア途上で保健師転職を決意する難しさを感じる』という職業キャリア上の模索であり、もう一つは、『人生設計をふまえた就職準備が必要だと自覚する』など、ライフイベントとの折り合いの模索であった。また、学生は卒後にいずれの職業を選択するにしても、＜働きたい職域＞、＜保健師就職時期＞など、『新たに迷いが生じて』いた。学生の新たな迷いは、OGの《情報提供》と併せて、職業選択の《モデル提示》が契機となり生じたものと考えられる。OGの職業選択

の《モデル提示》では、＜ライフイベントと保健師転職の経緯を語る＞なかに、職業生活と家庭生活との葛藤が含まれていた。岡本¹³⁾は、女性が職業に携わる期間が長くなるとともに、仕事に合わせて結婚や出産の時期が決定されるようになってきたと述べ、職業選択が生き方選択と分かちがたくなっていることを指摘する。これまで、看護系の大学教育は専門職業教育としての特性を持ち、専門職業性と学問追求という二本柱を両立できる自律した人材を育成することを使命¹⁴⁾としてきた。しかし、生き方、働き方が多様化する時代にあって、学生の【人生と職業キャリアの模索】という認識は、女子大学生の職業選択を支援にする上で、ライフキャリア全体の観点からの検討の必要性を示唆するものである。

また、学生は『新たな迷いが生じる』なかで、人生設計というキーワードでキャリアデザインを表現して前向きな態度を示した。青年後期の主体的な職業選択のためには、人生の中で仕事をどのように位置づけるのか、そこで優先したいものは何なのかを考えるアイデンティティの棚おろし¹⁵⁾が必要とされる。新卒者や転職者といった複数のOGの職業選択《モデルの提示》は、学生が生き方・働き方の多様性を知り、アイデンティティの棚おろしを自覚する契機になったと考えられる。

また、上述した環境探索と自己探索において、自己理解と社会や職業に対する理解の双方を結びつけて考え、自己と向き合うことが必要である¹⁶⁾。学生は、保健師の職域や仕事は多岐にわたることを知り、また生き方や職業キャリアの選択肢も多様であることを知った。そして、環境探索で【保健師の職業の解釈】を行ったことを【人生と職業キャリアの模索】のなかで生き方や働き方を通して自己と向き合い、大学時代にできる【保健師になるための備え】を考えた可能性が示唆された。

2. 学生の職業選択に関する認識全体に対するOGのキャリア支援

図1の太矢印に示したように、OGのキャリア支援の中には、学生の職業選択に関する認識への直接的な支援とは異なり、学生の認識全体を促す支援があると考えられた。学生は、OGを《仲間としての存在》と受けとめていたが、同じ大学で学び、自分たちが今抱える課題を既に経験し克服しているという信頼感や安心感が、教員や実習指導者との縦関係とは異なるピアサポート¹⁷⁾として機能したと考えられる。また、《保

健指導技術の提供》では、OGは4～5名の座談会で『雰囲気づくりを行い』、『積極的に質問を引き出し』、学生が考える『希望進路を支持し』ていた。保健師職はグループの健康学習のなかで自由に発言できる雰囲気づくりを行い、メンバーに考えさせ気づかせる学習活動を支援し、主体性を尊重することを重視する¹⁸⁾が、OGの支援も同様である。そして、グループ・キャリアアカウンティング¹⁹⁾の効果的な面接技法とも一致する。従って、これらはOGの学生の職業選択に関する認識全体に対するキャリア支援であったと考えられる。

以上より、OGのキャリア支援は、学生がライフキャリアを広く捉えて職業選択するプロセスの一助となると考えられた。本研究成果が教育課程外のキャリア支援活動の充実に役立つ資料となり、大学のキャリア支援の環境づくりにつながることが期待される。

IV. 研究の限界と課題

研究協力者はインタビュー日程との調整が可能な21名に限られたが、交流会参加者全員が参加の意志を示していたことから、インタビュー協力者と非協力者との偏りはないと考えられる。但し女子大学1校のみのデータであるため、今後さらにデータ数を増やし、新たに追加する内容があるかの検討が必要である。また、実習履修前を研究期間に設定しており、学生の保健師職に対する解釈は現実を知らない職業への憧れの段階である。実習で現実の厳しさを知って職業選択を決定する段階や、卒後に転職を検討する段階での、OGの継続的なキャリア支援の可能性を検証することが今後の課題である。

V. 結語

学生の職業選択に関する認識として、【保健師という職業の解釈】【人生と職業キャリアの模索】【保健師になるための備え】の3カテゴリが、OGのキャリア支援として、《情報提供》《モデルの提示》《仲間としての存在》《保健指導技術の適用》の4カテゴリが抽出された。OGによるキャリア支援は、学生がライフキャリアを広く捉えてキャリアデザインを描くために、多様な選択肢を提供して職業選択プロセスを支援

すると考えられた。

文 献

- 1) 中央教育審議会. “今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)”. 文部科学省. 2011.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf. (参照 2015-4-10)
- 2) 安井智恵. 大学におけるキャリア教育の取り組みに関する一考察—女子大生の実態分析を中心に—. 岐阜女子大学紀要, 2007, Vol36, pp.79-89.
- 3) 北宮千秋, 芝山江美子. 看護学生の職業選択と地域看護学実習準備行動との関連. 弘前大学大学院保健学研究科紀要, 2010, Vol9, pp.29-37.
- 4) 古城幸子, 杉本幸枝, 澤田由美. 看護大学生の進路選択・決定要因—大学のキャリア支援の課題—. 日本看護学会論文集—看護教育, 2016, Vol46, pp.103-106.
- 5) 厚生労働省. “平成 26 年衛生行政報告例(就業医療関係者)の概況”.
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/14/>. (参照 2017-8)
- 6) 土岐智賀子. 若者のキャリア形成における社会関係の役割—女子大生の将来展望と重要な他者—. 全国勤労者・共済振興協会, 2015, p.74, (全労済協会公募研究シリーズ, 42).
- 7) 1) 前掲書
- 8) 白鳥さつき. 看護大学生が看護職を自己の職業と決定するまでのプロセスの構造. 日本看護研究学会雑誌, 2009, Vol32, No1, pp.113-123.
- 9) Vaughn, S. Schumm, J. M.(1996). Focus Group Interviews In Education and Psychology. SAGE PUBLICATIONS, INC. 井下理監訳. グループインタビューの技法. 慶應義塾大学出版会, 1999, p.228.
- 10) 松田郁子, 高原未央. 大学生における就業動機, 問題解決スタイル, キャリア探索の関連. 東海学院大学紀要, 2012, No.6, pp.299-304.
- 11) 中村由美子他. 保健師講座2公衆衛生看護技術. 医学書院, 2016, pp.100-105.
- 12) 本多陽子, 落合幸子. 医療系大学への進路決定プロセス尺度作成の試み—進路決定プロセスの類型と職業的アイデンティティからの検討. 茨木県立医療大学紀要, 2006, 11, pp.45-54.
- 13) 岡本祐子. 女性の生涯発達とアイデンティティ—個としての発達・かかわりの中での成熟—. 北王子書房, 2010, p.118.
- 14) 井上仁美, 後藤淳他. 看護学科学生を対象とした臨地実習でのキャリア面接の実践と検証. 大学教育ジャーナル, 2012, Vol.10, pp.63-68.
- 15) 13) 前掲書 p.137
- 16) 厚生労働省委託事業—平成 22 年度キャリア教育専門人材養成事業—高校におけるキャリア教育実践講習—明日から使えるキャリア教育実践編—. 株式会社インテリジェンス, 2010, p22.
- 17) 西山久子, 山本力. 実践的ピアサポートおよび仲間支援活動の背景と動向. 岡山大学教育実践センター紀要, 2002, 2, pp.81-93.
- 18) 11) 前掲書, p.174
- 19) 宮城まり子. キャリアカウンセリング. 駿河台出版社, 2016, pp.189-193.

Understanding of Career Choices of Female University Students Who Have Chosen the Public Health Nursing Course and Career Support Offered by Public Health Nurses Who are Graduates of the University

Akiko Fukahara *, Mika Kage *, Naoko Itou *,
Mika Jyoujyou **, Miyako Hirashima ***

<Abstract>

To obtain suggestions for career support offered to public health nursing course students at a women's university, we held exchange meetings attended by students and public health nurses who had graduated from the university, and examined the students' understanding of their career choice and the details of support provided by the graduates. Three categories were extracted for the understanding of career choice; understanding of what a public health nurse career consists of, seeking life career development and a vocational career, and preparedness to be a public health nurse. Four categories were extracted as support provided by the graduates; provision of information, presentation of models, recognition of the students as fellow nurses, and imparting health guidance skills to the students. As it is difficult for the students to experience actual work as public health nurses before they start job hunting, discussions with graduates who are actually working as public health nurses is believed to be helpful to students who are considering their future career and life development in a wide perspective.

Keywords: career support, career choice, public health nursing course,
female university students, graduates

* Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University
** Public Health and Welfare Services Division , Yahatahigasi Ward Office
*** Health care office of 2nd factory, TOTO Co.,Ltd.